

## 第175回国際研修（犯罪者処遇）：オンライン実施 「女性犯罪者の処遇」

### 1 日程及び参加者

- 令和3年10月26日（火）から同年11月11日（木）まで
- 海外参加者11か国・地域21名

### 2 研修概要及び実施方法

本研修では、女性犯罪者の処遇に焦点を当て、女性に特有のニーズに配慮し、性差に対応した社会内及び施設内処遇を実現するための知見や理解を深めることを主要課題としました。

また、新型コロナウイルス感染状況に鑑み、全面的なオンライン形式により実施しました。研修員のいる国の時差や勤務日等を考慮し、研修員は時差帯により2セッションに分かれた上で、講師との質疑応答、討議、個人発表をライブセッションで実施したほか、オンライン上のチャット機能等を活用することで、来日研修と遜色のない交流が図れるよう配慮しました。

### 3 研修の内容

#### (1) 講義

##### ア 実施形式

研修員は事前収録した講義をオンデマンドで視聴し、質問をオンライン上で提出しました。その上で、講師とのライブセッションにおいては、事前に提出された質問を中心に質疑応答や討議を行いました。招へいた外部講師は以下のとおりです。

##### イ 講師及び講義内容

- (ア) ステファニー・コビンソン氏（米国, Institute for Relational Development 及び Center for Gender & Justice 共同代表）

「性差に配慮した司法：女性のためのサービスの創出」

- (イ) 上岡陽江氏（ダルク女性ハウス代表）

- ① 「依存症の女性とその子どもたちのための子育て支援」
- ② 「当事者や子どもたちの聞き取りから見えたもの」

- (ウ) 木下登志美氏（更生保護施設両全会施設長）

「更生保護施設 両全会」

- (エ) 小田切真理氏（矯正局仙台矯正管区成人矯正第二課長）

「女性矯正施設の特徴－課題と対策」

上述した外部講師に加え、当所高井文香教官より、「日本における女性犯罪者の社会内処遇」と題し、保護観察に付された女性に処遇について講義が行われました。

## (2) 講師との質疑応答及び討議

コビントン氏との質疑応答セッションを通じて、ジェンダーに対応した処遇を支える理論的な背景やエビデンスについて理解を深めたのに対し、日本人の実務家との質疑応答セッションでは、社会内及び施設内における女性犯罪者の処遇の効果的な在り方について、より実務的な側面から議論を行いました。

なお、コビントン氏とのライブセッションでは、質疑応答に加え、ブレイクルーム機能を活用して研修員を2グループに分け、コビントン氏による講義の中で紹介されたジェンダーに対応した刑事司法システムを実現するための6原則について、実際の女性犯罪者処遇の現場で適用するための方法について討議及び発表を行い、コビントン氏からの講評をいただきました。

## (3) アクションプラン

研修の最後に、本研修を通じて学んだことを基に、自国で女性犯罪者の処遇をより良くするためのアクションプランを作成及び発表しました。研修員から発表されたアクションプランの内容から、各研修員がジェンダーに対応した処遇についての理解を深め、それを自国で実践に移していきたいという意欲が伝わり、実際にそれを実現するためのアイデアがたくさん出されました。

## 4 研修員からのフィードバック等

研修全体を通じた感想として、“ジェンダーへの応答性”等、これまで聞いたことなかった概念を習得できたことや、他の研修員と実務について共有できたことなどについてポジティブなフィードバックをたくさんいただき、対面研修やフォローアップ研修への強い要望も出されました。今後は各研修員が自国にて、研修成果を実務に活かしていくものと期待され、3週間のオンライン研修という制約の中でも、このように互いに学び合う場を提供していくことの重要性を改めて感じることができました。

## 5 担当教官（佐々木彩子）の所感

ジェンダーに対応した処遇の重要性が認識され、実践に取り入れられるようになったのは、日本でも矯正の長い歴史の中で比較的最近のことです。研修開始当初は、研修員もこの考え方に馴染みがなかったようですが、どの国においても、薬物依存、トラウマ体験、親密な関係性における暴力や虐待、子の養育等、女性犯罪者が抱える問題の多くは共通しており、各研修員がそれぞれの現場で同じような問題意識を抱いていたことが分かりました。本研修を通じて、これらの問題を理論的・科学的な観点から考察し直すことができ、効果的に対応するためのヒントがたくさん得られたものと思われまます。研修期間中にも、自国の同僚に本研修で学んだことを積極的に共有している研修員がいましたが、引き続き本研修の成果が、それぞれの国における女性犯罪者処遇の発展に貢献することができれば大変光栄です。